

後期研修を終えて

産婦人科後期研修医 楠目 晃子 平成 21 年奈良県立医科大学卒

縁もゆかりもない九州長崎で暮らし始めてはや 3 年以上が経過しました。初期研修病院は 36 週以上の正常分娩のみ対応の病院であったため、最初はわからないことだらけでした。基礎から熱心に教えてくださった先生方、コメディカルの方々には本当に感謝しています。毎日学ぶことだらけで、たくさんの印象深い症例を経験し、充実した 3 年間を送ることができました。

私が研修した長崎医療センター産婦人科は、長崎県内唯一の総合周産期センターであり、離島をはじめ、大学病院からも搬送があるなど長崎県内中のハイリスク妊娠の管理をする周産期救急医療機関の役割を担うとともに、オープンシステムを導入により正常妊娠の分娩も取り扱うなど幅広い周産期管理を行っています。婦人科に関しても、良性腫瘍から悪性腫瘍まで様々な症例があり、手術も卵巣腫瘍茎捻転などの緊急を要する手術から広汎子宮全摘までたくさんの手術を経験することができ、化学療法、放射線療法含め集学的治療を学ぶことができました。

毎日が目まぐるしく過ぎていく中、指導してくださる先生方みんないつ休んでいるのかわからないぐらい毎日懸命に働き、常に更なる知識の吸収も怠らず、将来のモデルになるような尊敬できる先生方に囲まれて仕事をできたことはとても恵まれていたと感じます。また、臨床だけではなく、研究発表に関しても、普段の臨床に深く関わる取り組みやすい題材で研究し、国内外で発表する機会を持てたこと、論文を執筆できたことも有難い経験でした。

後期研修期間のうち 2 か月間は麻酔科で研修させていただき、麻酔科研修後も帝王切開などの症例で多数麻酔を担当することができました。術者とは違った視点で手術に関わり、考えることができ、自家麻酔をかける機会の多い産婦人科医として、とても有意義な研修となりました。後期研修 3 年目で妊娠したため NICU 研修ができなかったことが唯一残念ですが、NICU、麻酔科のバックアップがあつてこそ安心して産婦人科の仕事ができているのだなと改めて感じました。

一晩中胎児心拍モニターとにらめっこしながら分娩までハラハラしたこと、夜間に寿命が縮まるような搬送患者の対応など、疲れて朝を迎えても、元気な赤ちゃんの声と、10 階の食堂から見えるきれいな景色に何度も癒されたことはとても思い出深いです。現在は育児中ですが、今後も後期研修の 3 年間に学んだことをいかして診療に臨んでいきたいと思っています。